

◆道の駅『来夢とごうち』が、道の駅としては中国地方で初の『外国人案内所』に国交省から認定されました!!

政府が強力に推進する地方創生の拠点として期待されている『道の駅』は、過疎地において今後益々重要な役割を期待されていますが、その一つが『外国人観光客』の地域拠点となることです。

当協会ではこの様な流れを先取りし、4年かけて外国人対応のノウハウを蓄積してきました。その実績が国土交通省より認められ、道の駅としては中国地方初の『外国人案内所』に認定されました。

(中国地方では当道の駅と『萩しーまーと』のみ認定されました。)

外国人旅行客が多数訪問する国際都市『広島市』に隣接する当町の立地的優位性を経済波及効果に確実に繋げるべく、戦略的取り組みを更に強化かつ加速して参ります。

これを機に、外国人旅行客への有料ガイド(謝礼が伴う案内人)に興味がある町民の方々に広く募集しますので、ご連絡をお待ちしております。(☎28-1800)

◆道の駅お土産売店部門の売上げが平成18年度以降で最も多くなりました!!

役場商工観光課と当協会が事務所を構えている言わば『安芸太田町観光振興』の顔ともいえるべき『道の駅来夢とごうち』(当協会指定管理施設)お土産売店部門の売上げが平成18年度以降で、最高額となり着実に改革の成果が出始めています。(平成25年度比16%増加)

特に町内産品の売店売上げに占める割合が『チョコちゃん』フィーバーを契機に『干し柿関連商品』などを中心に飛躍的に伸び(直近では特産品売上割合が約5割を達成)、域内経済波及効果に大きく貢献できるようになりました。消費税増税や、8月の異常降雨で苦戦続きの道の駅が全国的に多い中、来場者数を伸ばすことが出来ました。

内需が冷え込んでいる『過疎地』において経済波及効果を及ぼす即効性の高い手段は『来町者を増やす』こと(つまりビジネスチャンスを増やすこと)につきますが、ただ来て貰うだけでは意味がありません。そこには経済波及効果を生み出す仕組み(=お金を落としてもらう仕組み)が必要です。

当協会では、町内事業者向けに『道の駅売店前スペース』を保健所の制限いっぱい(最長3日間連続)でお貸しする制度を昨年度より作っていますので、週末などは是非積極的にご利用ください。(現在、町外事業者からの問い合わせは多くありますが、町内事業者からの問い合わせはほとんどありません。このままでは道の駅賑わい創造の点から町外事業者へ貸出しの方針を出さざるを得ません。)

詳細説明資料は当協会ホームページ『安芸太田ナビ』もしくは道の駅で用意していますので、まずは資料をご覧ください。

◆民泊家庭の^{かみもとぶ}上本部中学校訪問・交流が沖縄県内全ての大手メディアに取り上げられました!!

2014年から2年連続で来町している沖縄県上本部中学校の生徒さん達に町内産の美味しいコメを食べさせたいと、3名の民泊引受け町民が自費で学校を訪問し、生徒達との有意義な交流を行いました。

その結果、全国から民泊を引き受けることはあっても子どもたちに民泊をさせることが殆ど無い沖縄県民に非常に新鮮に捉えられ、安芸太田町の方々がわざわざ上本部中学校に来てくれたとして、沖縄県内全ての大手メディア(5社)が取材に訪れ、沖縄から最も近い豪雪地帯『広島県安芸太田町』の認知度が沖縄県で一層高まりました。

当町民、沖縄の生徒達、生徒の家族、先生たちも本当に楽しそうに交流をしていたのが印象的でした。

生徒達のため、そして『あきおた人情田舎民泊』PRのために自費かつ強行日程で沖縄に行かれた3名の民泊家庭に敬意を表するとともに、「公助=行政が支援してくれること」の手前にある「自助=自らできることをやること」とは正にこういうことなのだ当協会職員一同教えていただいたことに心から御礼申しあげ、しっかりと心したいと思えます。

現在、町内各地で民泊がきっかけとなって、国内外の若者との交流がさまざまなご家庭で発展しているようです。

お一人お一人が『町の顔=交流大使』になれる素質を持つ人情深い方が多い安芸太田町に相応しい事業である『人情民泊』へのご参加を是非ともお待ちしております。



沖縄の生徒達と当町民の交流の様子

●民泊に関するお問い合わせ/田舎体験推進協議会 ☎28-1800 (観光協会)